



平成27年1月1日現在	総世帯数	1,823世帯
	総人口	4,850人
	男	2,335人
	女	2,515人

平成27年神林区新年祝賀式

倉科町会連合会会長挨拶

明けましておめでとうございませう。昨年は、県内各地の自然災害を目の当たりにした一年でした。折しも、市に除雪財政援助を要望し、27年、町会毎の除雪機購入等の援助が決定しました。神林の防災体制の再構築と町民の絆を一層強固にする必要性を痛感しています。

松本山雅J1昇格という輝かしい足跡は、神林山雅の会活動の歴史であります。緑の旗のもと、幅広い年代層の縦の絆と、地域全体で盛り上げる横の絆で、住民の絆を深める役割を担ってききました。

また地域進化の試行として、ふれあい文化祭を、純粹に文化祭とし、敬老祝賀会を各町会開催と分け、大盛況なうちに新たなスタートとなりました。

残る在任期間を役員一同一杯勤め、次期役員にバトンを渡したいと考えています。引き続き皆様のご支援を頂き、神林区の平穩を心より祈念いたします。

上條相談役挨拶

新年を迎えお喜び申し上げます。昨年は県内各地で自然災害がありました。神林区では、2月の豪雪において、地域除雪業者から、雪捨て場を地域ごとに用意してほしいとの提案に、神林町会連合会で対応して頂きました。行政の行き届かない地域の問題を地域で処理する工夫ができ、力強く感じました。

小・中学校の改修工事、神林地域道路の開通と、神林に大きな動きがあります。出張所は、地域づくりセンターとして、地域の問題を、自主的に努力する方向になつてきています。27年から、自主的事業に市が助成金を出すことが検討されています。

皆様のお知恵を拝借しながら、より良い地域づくりのために頑張りたいと感じるところであります。神林区が発展し、穏やかな年になることを祈念しております。

神林とJ1松本山雅

アルウィンホームスタジアムとするサッカーJ2『松本山雅FC』がリーグ2位となつてJ1昇格を決めた。J2昇格からわずか3年での快挙に多くのファンやサポーターが喜びに沸いている。

3年前、地区の山雅好きの有志が集まつて『神林山雅の会』が発足した。町会連合会においても県の支援金を活用して『松本山雅FC支援を核にした地域づくり』を3年間の事業として取り組むことになった。

その活動として、

◆山雅の支援と神林区をアピールするのぼり旗の製作と地区内有志住民や事業所におけるホームゲーム時の掲揚

◆山雅のコーチやスタッフによるサッカー教室の開催

◆ホームゲームでのエスコートキッズ参加

◆オリジナルTシャツの製作

◆文化祭でのキックターゲットの実施

などを行ってきた。寺家の交差点につながるアルウィンに向かう市道は『山雅街道』とも呼ばれ、道沿いに立ち並ぶのぼり旗は神林のPRに一役

買っている。

また、神林山雅の会の会員は120名ほどになり、シーズン開幕前や閉幕後の懇親会には多いときは80名近くの参加がある。老若男女が集い、地区の住民同士の新しいつながりを創り出してきている。神林にアルウィンがあるからこそその成果といえる。

一方、クラブはこの夏をめどに新スタジアムの構想を提示する方針で、松本駅からの徒歩圏内にスタジアムの建設を求める意見もある。すぐに実現するものではないものの、この先、アルウィンがホームスタジアムでなくなる可能性もある。

山雅のJ1昇格を期に、山雅を核としたさらなる住民同士の絆づくりと神林区の地域おこしを進めるとともに、その先の姿について模索していく必要がある。



鎖川

冬の除雪事故は近年増加傾向にあります。例えば



- 一、はしごから落ちる
- 一、屋根から落ちる
- 一、滑って転倒
- 一、交通事故

除雪作業は見た目以上に重労働です。身体への急激な負担を減らすように無理な作業は避けましょう。

- ◆作業は必ず二人以上で行なうように、家族や近隣に声を掛け合いましょう。
- ◆頭部の保護や寒さ対策のためヘルメットや帽子の着用を心掛けましょう。
- ◆防寒服のフードは周りの音が聞こえにくいので注意が必要です。
- ◆路面凍結による転倒事故も多くあります。靴は底が柔らかくて溝が深く、しっかり路面をとらえらるるものを選びましょう。

最後に、自宅のカーポートが落下する事故が多発し、車体を損傷するケースが多く見られます。火災保険などの契約内容を確認してみたいかがでしょうか。

鎮守の杜音楽祭

12月20日、神林公民館にて第3回鎮守の杜音楽祭が催されました。冷たい雨の中、演奏者を含めて、約130人が集まり大盛況でした。17の団体・個人が参加、18の演目を披露しました。その内、つばさ文庫、神林オカリナ同好会、神林ひばりの会、梶海渡クラリネット、篠笛の会、町神夏まつりバンドは、神林を拠点とするなど神林に深く関わる団体・個人です。他にも、神林在住または神林ゆかりのメンバーが活躍している団体も複数ありました。



サクソを演奏する小林茂幸さん

「野菜畑のクラリネットター」梶海渡の小林茂幸さん(70歳)のお話を伺いました。小林さんは二十歳のころ警察の音楽隊に入隊。それ以来、50年間演奏をしています。退職後は、家業の農業をする傍ら、一人でクラリネットやサクソを吹いていました。



神林ひばりの会



神林オカリナ同好会

7年前からは、市内のデイスーツや農協の収穫祭などで演奏をしています。きっかけはお母様の看病をしていた頃、看護師さんの声かけが大きな励みとなったことでした。そこで、音楽でお年よりの励ましになれたらと、デイスーツなどを回り始めました。現在は、年間60回を超える精力的な活動をなさっています。「演奏を聴いて泣く人ももらえることが、本当にうれしいです。」と、おっしゃっていました。



ダーツ



ドッチビー



ボーリング

11月29日、神林体育館で80人の子どもたちが参加してゲーム大会を楽しんだ。

神林子ども会育成会 ゲーム大会



【富岡製糸場・森將軍塚古墳】神林文化委員会恒例の、秋の史跡めぐりが11月19日に行われた。世界遺産の富岡製糸場は、平日にもかかわらず、大変な賑わいであった。建物・機械は、明治初期に作られたとは思えないほどよく手入れがされていて、だからこそ、世界遺産に指定されたのだと納得することができた。午後は千曲市の森將軍塚古墳を見学し帰宅した。今回の史跡めぐりから、神林地区の歴史的遺産を、世界遺産とは言わないが「地域の宝」として後世に伝える必要性を強く感じた。

秋の史跡めぐり



今年の人權視察研修は上田市にある無言館を訪問しました。第二次世界大戦で没した画学生の遺作が展示された美術館で信濃デッサン館の分館として1997年に開館した。館主は窪島誠一郎。自らも出征経験を持つ画家野見山暁治とともに全国を回って戦没画学生の遺族を訪問して遺作を集めた。美術館に入ると数多くの遺作が展示されていて、中には家族に送った手紙、戦死を知らせる通知書等があり、展示されている絵画は何も語らず「無言」ではあるが、見る側に多くを語りかけてくれるような気持ちにさせてくれた気がしました。

人權視察研修